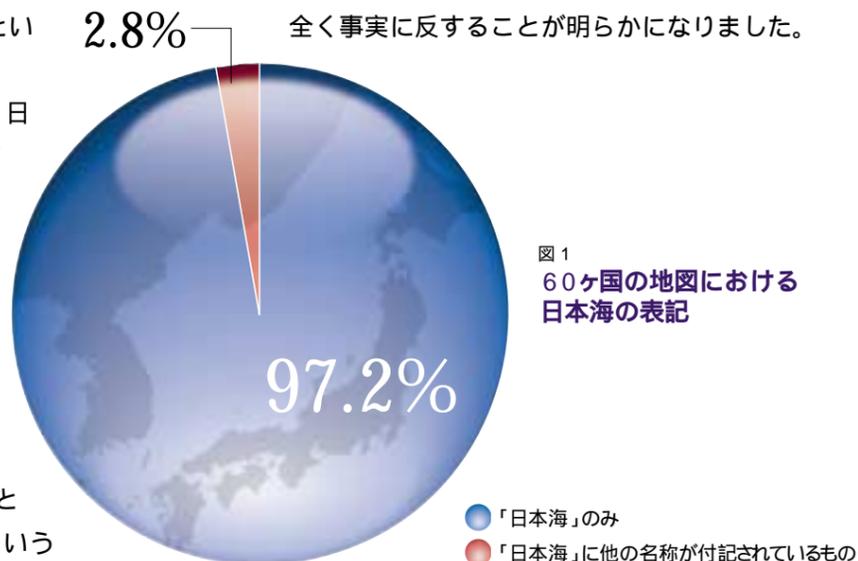


# 各国地図における「日本海」の呼称

日本政府は、2000年8月から10月(注1)にかけて、韓国、北朝鮮及び日本を除く世界の主要60ヶ国(注2)において実地調査を行い、それぞれの国の市販地図を中心に、「日本海」(アジア北東部と日本列島、サハリンによって囲まれた海域)が如何に表記されているかを調べました。合計で392枚の地図を調べることができましたが、その結果は表1及び図1の通りです。

この調査の結果、以下の事実が明らかとなりました。

- 調査した地図のうち、97%以上が英語又は現地語により「日本海」という名称のみを使用。
- 英語にせよ、現地語訳にせよ、「日本海」という名称を全く使用していない地図は皆無。
- 英語にせよ、現地語にせよ、「東海」という呼称を単独で使用している地図も皆無。
- 非常に少数の地図が英語又は現地語により「日本海」と「東海」の両方の呼称を使用していたが、その場合でも「日本海」という表記が主であり、「東海」という呼称は括弧付きや付記の形で使われていた。



調査した国・地図の総数	60ヶ国	392枚
英語でSea of Japan 或いはJapan Seaと記載し、又は現地語で「日本海」の訳を記載したもの	381枚	(97.2%)
現地語で「日本海」と「東海」の訳を、この順で併記したもの	1枚	(0.3%)
英語でSea of Japanと記載し或いは現地語で「日本海」の訳を記載した後に、括弧付で(East Sea)或いは現地語による「東海」の訳を付記したもの	4枚	(1.0%)
英語または現地語訳でSea of Japanと記載し、日本語読みのNippon-kai、韓国語読みのTong-hae、ロシア語読みのJaponskoje Moreなどを付記したもの	6枚	(1.5%)
英語でも現地語訳でも「東海」とのみ記載したもの	0枚	(0.0%)

(注1) このうち、10ヶ国については2002年7月に補足調査。  
 (注2) インドネシア、ベトナム、カンボジア、シンガポール、スリランカ、タイ、中国、パキスタン、ブルネイ、マレーシア、米国、カナダ、アルゼンチン、ベネズエラ、エクアドル、キューバ、グアテマラ、コロンビア、チリ、ドミニカ(共)、トリニダード・トバゴ、ブラジル、ペルー、メキシコ、アイルランド、イタリア、オーストラリア、オランダ、ギリシャ、スイス、スウェーデン、スペイン、デンマーク、ドイツ、ノルウェー、ハンガリー、フィンランド、フランス、ブルガリア、ベルギー、ポーランド、ポルトガル、ユーゴスラビア、ルーマニア、英国、ロシア、豪州、ニュージーランド、バブアニューギニア、フィジー、イスラエル、イラン、オマーン、サウジアラビア、シリア、バハレーン、エジプト、ケニア、ナイジェリア、モロッコ

# 日本海名称の定着過程

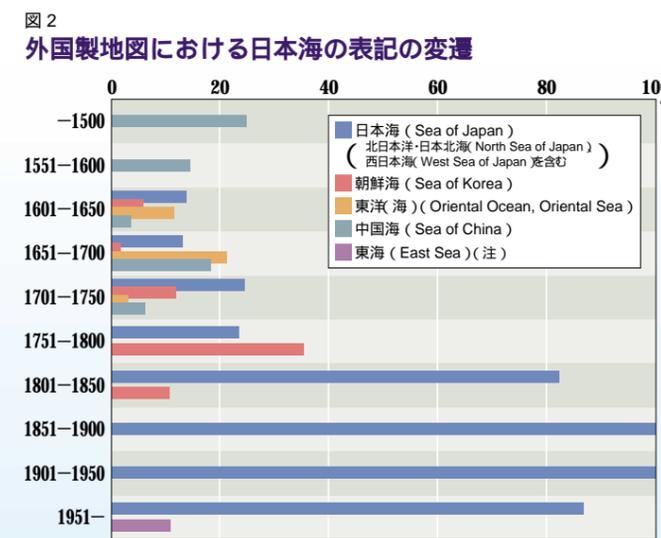
「東海」を主唱する韓国側の研究は、18世紀までにヨーロッパで作成された地図において朝鮮海(Sea of Korea)やオリエンタル海(Oriental Sea)を意味する呼称が多いことを根拠として、「日本海」は歴史的に確立された名称ではなく、オリエンタル海と同義である「東海」(East Sea)が「正しい名称」とであると結論づけています。しかし、韓国側の研究は、19世紀前半にヨーロッパで作成された地図においては、「日本海」の名称が圧倒的に多いという事実には言及しておらず、「日本海」という名称の定着は20世紀前半の日本の拡張主義によるものであると一方的に主張するのみです。また、韓国側の研究には西洋から見た東洋の海の意味もあるオリエンタル海を韓国から見た東の海を意味する東海と同一視しているという問題があります。

最近の日本において、「日本海」の名称について最も詳細に論じているのは、1994年、菱山剛秀氏・長岡正利氏が連名で国土地理院から公表した「日本海呼称の変遷について」という論文であると思われます。この論文は、16世紀から20世紀にかけて主にヨーロッパで作成された200枚以上の地図を調査し、「日本海」という名称の定着過程を詳細に研究しています。その他、青山宏夫氏による「日本海という呼称の成立と展開 - 地図史からのアプローチ - (1993年) 及び「日本海とその周辺諸地域における地理的知識の形成と日本海の呼称に関する研究 (1997年) 川合英夫氏による「日本海」という名の妥当性と地図における慣用・定着の時期 (2001年) 谷治正孝氏による「世界と日本における海域名「日本海」の生成・受容・定着過程 (2002年) 等の価値ある論文が公表されています。

- これら5つの論文が一致して認めているのは以下の点です。(図2及び表2参照)
- 日本海という名称が初めて使われたのは、17世紀初頭にイタリア人宣教師であるマテオ・リッチによって作られた「坤輿万国全図」。
- 17世紀から18世紀にかけて、アジア大陸北東部や日本列島の形状が正しく認識されていなかったこともあり、この海域には中国海(Sea of China) 東洋海(Oriental Sea or Ocean) 朝鮮海(Sea of Korea) 日本海(Sea of Japan) など様々な名称が使われていた。

- 18世紀の終わりから19世紀の初めにかけて、フランス人ラ・ペルーズ、英国人プロトン、ロシア人クルーゼンシュテルン等が日本海周辺を探検し、日本海の形状と沿岸の地形が明らかになった。この時期以降、ヨーロッパで作成された地図では「日本海」(Japan Sea, Sea of Japan)の名称が一般化し、国際的に定着。
- 当時、日本は江戸幕府の下で鎖国政策をとっており、基本的に外国との接触は禁止されていた。鎖国政策が解除されたのは1854年であるから、18世紀の終わりから19世紀の初めにかけて、ヨーロッパ諸国が地図に日本海の名称を記載するようになったことは、日本とは直接の関係がない。また、青山氏、菱山氏・長岡氏と谷治氏の研究によれば、日本には古来より広い海域に名称をつける習慣がなかった。日本が「日本海」の名称を使用し始めたのは、ヨーロッパより遅かったのである。

以上のように、「日本海」という名称は18世紀の終わりから19世紀の初めにかけてヨーロッパにおいて確立し、その後、200年にわたって安定的に使用されてきたものです。従って、韓国側が主張するように、20世紀初頭、日本が植民地主義、軍国主義政策の観点から、「日本海」という名称の定着を図ったという韓国側の主張は正しくありません。



この海域に複数の名称が用いられている場合、それぞれの名称を0.5として集計している。  
 出典: 「日本海呼称の変遷について」1994 菱山・長岡。表2参照。  
 (注) 大韓民国で作成された地図。